

令和 8 年度 専門職大学院法務研究科（法科大学院）（C 日程）

小論文（未修者）

注 意 事 項

以下をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。
2. この問題冊子の 3～7 ページに問題が掲載されています。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 解答用紙は（そのⅠ）・（そのⅡ）・（そのⅢ）の合計 3 枚です。解答用紙の追加は認めません。
4. 試験開始の合図があったら、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
5. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。
6. 解答用紙には、黒鉛筆（シャープペンシル可）の他、黒または青の万年筆・ボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。解答の文字が読みにくい場合、点を与えないことがあります。
8. 試験中、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

〔このページは空白です。〕

小論文（配点 100 点）

I. 長文読解

以下の文章は、港千尋の「家・カメラ・戸口から差し込む光 ブルデューと写真」（官島喬＝石井洋二郎編『文化の権力―反射するブルデュー』（藤原書店、2003 年）収録）からの抜粋（一部修正を含む。）である。

下記の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

（配点：70 点）

転倒した世界

『実践感覚』に結晶しているブルデューの、哲学・民族学・社会学を横断する独自の分析的記述のなかで、ひときわ印象的なのはカビルの家とその世界との照応である。これは一九六三年に書かれ、一九七〇年にレヴィ＝ストロースの六十歳を記念する際にはじめて出版されたもので、カビル文化のコスモロジーを構造主義的に分析した最初の論文である。

ブルデュー自身による概念図からも知られるように、カビルの家は梯形で内部は壁によってふたつの空間に分けられている。片方は家畜用で、それより一段高いほうが人間のスペースになる。動物も人間も、家の中には東側に設けられた大きな表玄関から入る。反対側にある小さな裏戸は人間専用である。男性は表口を、女性は裏口を使用する。これらの二項対立に基づいて、家の内部と諸活動が組織される。詳細は省くが、その図式をおおまかにまとめると、次のようになる。

男性 外―高―明―調理済のもの―食料用の穀物

女性 内―低―暗―生のももの―保存用の穀物

建築を含むあらゆる物質的財は常に抽象的な価値と結びつけられて、この図式を構成している。それぞれの側に入る物質と価値のリストは、彼らの家の構造が、カビル文化のコスモロジーと照応している。もっともそれだけならば、単に男性上位の文化構造として説明すればすむことであり、さほど驚くには当たらない。ブルデューによるカビルの家屋分析が興味深いのは、東側の戸口から入ることが、何を意味しているかという点である。言うまでもなく東側は太陽の昇る

方向であり、光の差し込む方向であり、明るい方向である。だから男性はこの戸口を使用する。ところがいったん家のなかに入ると、女性の側であるはずの家の西の壁が、男性の場所となる。なぜなら、戸口から差し込む光が当たるのは、家の内部の反対側の壁になるからであり、逆に女性にとっては、家の内部の東側の壁が彼女らの場所となる。光の側から入った男性は、家のなかの西の壁に反射する光と向きあう。西の壁は、「家のなかの東」になるわけであり、反対に東の壁は「家のなかの西」となる。入るにせよ出るにせよ、男性にとって常に明るい側を保つためには、この空間的な逆転が必要となるわけである。論文のタイトルである「転倒した世界」は、(1) この外部と内部における逆転現象を指している。

建築の中と外とで起きるこの現象は厳密に言えば転倒ではない。それが転倒のように見えるのは、あくまで方角を基本にして見ているからであって、このような家に生きる人びとにとっては、ごく自然な身振りであろう。あえて使用されている「転倒」という言葉からわたしたちが想うかべるのは、おそらく倒立した世界の像である。カメラというもともと「部屋」を意味する空間には、少なくともひとつの窓が開いている。片方の壁にあいた窓から入った光は、反対側の壁に倒立した像を投影する。窓が十分に小さい場合あるいは窓にレンズが取り付けられている場合は、投影された像はきれいな輪郭を結び、屋内にいるわたしたちに逆さになった戸外の風景を示すだろう。もし屋外からその像を眺めようとするならば、壁をスクリーンにしたり、プリズムで光を屈折させてもうひとつの戸口つまり裏口からその光景を覗くことができるだろう。「転倒した世界」という表現から、わたしたちは容易に暗箱とのアナロジーを思い浮かべる。

対象とする文化を知の壁によって切断し、信頼に足ると思われるデータだけを、わずかにあけられた窓から入れることによって、自らの文化の壁に投影することが民族学の目的だった時代がある。しかしブルデューがカビルの地に到着するはるか以前に、そのような暗箱のモデルは成り立たないことが明らかになっていたし、「転倒した世界」がそのような意味で使われているわけではないことも明らかである。カビルの家の表口と裏口は、ひとつの社会の男性と女性とに結びつけられているのであって、認識装置における「主体」と「客体」とに対応するわけではない。カビルの農村地帯で非常に多くの写真撮影を行ったブルデューも、この点については十分に意識的であったはずであり、そのことは残された写真から読み取ることができる。家の内部の壁の位置、穀物の貯蔵場所、床の高さ、貯蔵用の壁の装飾・・・カビル世界の小宇宙である家を詳細に記録する

カメラは、その位置を慎重に測りながら撮影しているように見える。その理由のひとつは、被写体の正確な記録と同時に、すでに述べた家の構造上、どこから光が入ってくるかを知ることが重要だったからであろう。

認識の身体化と移動する視点

『実践感覚』においてすでに明らかなように、カビル文化の構造分析をとおして、ブルデューは構造主義の魅力とその限界を同時に認識していた。分析のシェーマに整合性を求めれば求めるほど、現実との乖離が明らかになることを、ブルデュー自身が気づいていたからである。男性原理と女性原理とに分類する長いリストをつくりだしているのはカビルの文化ではなく、民族学者の文化であるという批判のほうが、むしろ今日ではまっとうな響きをもつだろう。対象との距離を不問とする客観的な観察や分析それ自体に疑問が持たれるのと同様に、写真というメディアにも、七〇年代以降、同様の変化が起きる。たとえば「構築される写真」という呼び名が示すように、写真家は切り取られる世界の外側に位置している存在ではなく、画面そのものに介入し、世界を作り上げてゆく存在なのである。

したがって重要なことは、『実践感覚』で述べられているように、定点から観察することではなく、観察者の視点を常に問いつづけることなのである。ちょうどカメラをもった写真家が、村のなかを移動しながら常に視点をええつつ撮影するように、視点の位置によって絶えず変化する外と内との様相を意識することが必要である。(2) わたしたちが「カビルの家」の世界から読み取るべきなのは、おそらくこのことなのだ。

家の外と内とで世界が転倒することが発見されるには、特定の視点から離れ、家の外と内とを移動しなければならない。構造分析を行いながら、それを超えたところで示される「転倒した世界」。建築的構造の「意味」は解釈によって明らかになるものではなく、建築自体のなかに埋め込まれているのだということだろう。「埋め込まれている」のは建築だけではない。そこに生きる男性の身体にも埋め込まれており、ひとこと言えば、生きられる家と生きている世界そのもののなかに意味は埋め込まれている。ブルデューが農場や村や家の内外を移動する身体にとりわけ注目したのはこのためであろうし、さらに言えば、「移動する身体」（そこには人間の身体だけでなく季節や天体までも含められる）をと

おして、カビル社会の特異な時間感覚を理解することができたはずである。

わたしは「埋め込まれる」ことを、ここではembodied という意味で使っているが、ブルデュー自身もまた別の意味で embodied されていることに気づいていたであろう。リフレクティヴであること——これもまた写真用語だが——を徹底した思想家にあっては、むしろ当然のことである。「身体化」と言い換えてもよい。カビルの人々の認識が、家の構造やそれが生成するところの生活世界全体によって身体化されているように、わたしたちの認識もまた、身体化されているに違いない。ハビトゥスの概念も、ここを通過て生まれたものであるし、その身体化のプロセスとメカニズムを徹底的に洗い出したのが『ディスタンクション』であろう。

〔設問 1〕 下線部 (1)「この外部と内部における逆転現象」について、本文においてどのような意味であるか説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（その I）に行うこと。

（配点：30 点）

〔設問 2〕 下線部分 (2)「わたしたちが「カビルの家」の世界から読み取るべきなのは、おそらくこのことなのだ。」について、その意味する内容を、具体例を用いて説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（その II）に行うこと。

（配点：40 点）

II. 論理力を試す問題

（配点：30 点）

以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

A 市図書館には、本の貸し出しと自習室の利用に関する以下の規定があります。

1. 本の貸し出しについて

- ・本を借りるためには、A 市図書館の登録会員である必要があります。
- ・登録会員は、一度に最大 5 冊まで本を借りることができます。
- ・発売から 1 年未満の新刊は、登録期間 2 年以上の会員のみが借りることができます。
- ・発売から 5 年以上経過した旧版は、登録会員でなくとも館内で読む場合に限り利用できます。

2. 自習室の利用について

- ・自習室を利用するためには、A 市図書館の会員登録が必要です。学生会員は優先的に予約できます。
- ・自習室の利用には、前日までの予約が必要です。予約はオンラインでのみ受け付けています。
- ・ただし予約が入っていない場合、当日でも先着順で利用できます。当日申込みの場合、利用時間は 2 時間までです。

以下の各記述について、上記規定に基づいて真であるか、偽であるかを判断し、その理由を説明しなさい。

〔設問 1〕 A 市図書館の登録会員ではない利用者が発売から 4 年経過した本を館内で読むことはできない。

なお、解答は解答用紙（その III）に行うこと。

（配点 15 点）

〔設問 2〕 A 市図書館の学生会員が、当日の午前中にオンラインで自習室を予約して、午後に予約したとおり利用した。

なお、解答は解答用紙（その III）に行うこと。

（配点 15 点）

[このページは空白です。]

解答用紙 小論文 そのⅡ

[illegible]

評 点	
--------	--

解答用紙 小論文 そのⅢ

受験 番号			
----------	--	--	--

評 点	
--------	--